前進　やる気　こん気　勇気　　※学校ホームページにも掲載しています。

三気の門
PORTAL　SANKI

NO.9
2026.6.2
文責：佐藤正一

スマホは子供から言葉を奪う。

～国語力の低下とスマホの関係　ノンフィクション作家　石井光太氏の講演～

みなさん、子供たちの口癖に「うぜえ」「きも」「ぶっ殺す」のような言葉はありませんか。国内外で様々な罪を犯した少年たちを取材し、社会に訴えてきたノンフィクション作家石井光太氏の講演を聞く機会がありました。

この話を聞いたら、子供に早くにスマホを与えたら、言葉が奪われるのだということが分かり衝撃を受けます。

現在、子供たちにスマートフォンは深く普及しています。スマホを早くに持たされた家庭の子供は、「やばい」「えぐい」「めんどう」「終わった」という極端な表現をすることが多いそうです。これは自分の気持ちを言語化できないためで、こういう極端な表現が友人関係に誤解とトラブルを生じる原因となります。

石井氏は「国語力の低下の要因は家庭である」とズバリと言っています。ご家庭でも両親がスマホばかり見て会話をしない。育児もスマホで調べた一般論で進める。子供を見ていないそんな環境が増えています。それが子供たちから「言語」を奪っていきます。うまく言葉で表現できない子供はどうなるでしょう。

石井氏は「心のがん」になるという表現をしました。言葉がうまく使えないと、社会の中で上手に振舞うことができず、それが原因で様々な壁にぶつかって、「つまづき体験」をしてしまいます。そうなると「やっても意味ない」「どうせうまくいかない」「私は低スペック」と壁を乗り越えないであきらめてしまうことになります。

ではどうすればよいのでしょうか。人と実際に話す、様々な体験活動を通し、感じたことを表現する機会を数多く与える。それは学校で多く味わえる活動です。中学校でスマホの持参を原則禁止にしている理由の一つでもあります。